

## 令和5年度宗谷地域づくり連携会議

日 時：令和5年（2023年）7月7日（金）14:55～17:15

場 所：宗谷総合振興局2階 講堂

出席者：

所	属	役	職	名	氏	名
稚内市	副市長	川野忠司				
猿払村	村長	伊藤浩一				
浜頓別町	町長	南尚敏				
中頓別町	町長	小林生吉				
枝幸町	町長	村上守継				
豊富町	町長	河田誠一				
礼文町	町長	小野徹				
利尻町	町長	上遠野浩志				
利尻富士町	町長	田村祥三				
幌延町	町長	野々村仁				
北海道宗谷管内商工会連合会	会長	中村忠勝				
稚内観光協会	会長	中場直見				
育英館大学	副学長	佐賀孝博				
稚内開発建設部	部長	山梨高裕				
宗谷総合振興局	局長	清水目剛				

### <宗谷総合振興局地域創生部地域政策課 伊東課長>

本日は、お忙しい中ご参加いただきましてありがとうございます。ただいまから令和5年度宗谷地域づくり連携会議を開催させていただきます。

はじめにお手元に配布の資料につきまして確認させていただきます。まず1番最初に次第がございます、次に出席者名簿、配席図がございます、その後に資料1から5-2まで添付させていただいております。もしお手元にない資料ございましたら、事務局までお願いします。よろしいでしょうか。

それでは、お手元の次第に沿って議事を進めてまいりたいと思います。会議時間は2時間程度を予定しております。よろしく願いいたします。

それでは、開会にあたりまして、宗谷総合振興局長の清水目よりご挨拶申し上げます。

#### ＜宗谷総合振興局 清水目局長＞

お疲れ様でございます。本日は皆様大変お忙しい中、各市町村長の皆様におかれましては、国、道への期成会要望から引き続き、本会議にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

先ほどの要望会では、期成会の皆様方から管内の基幹産業であります一次産業が抱える課題、またそれに係る振興策、さらには離島振興対策とあわせて地域医療の確保など、地域が抱えている様々な課題につきまして、ご要望から伺ったところでございます。こうした地域課題の解決に向けては、国や道、市町村、そして地域の皆さんのご意見、ご知見をいただきながら、一体となって取り組んでいく必要があると思っております。この会議での議論、ご意見を踏まえながら、今後の政策形成に結びつけてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

今回の意見交換のテーマにつきましては、「将来にわたって「活力ある宗谷」の実現に向けた地域づくり」とさせていただきます。新型コロナウイルス感染症の流行や物価高騰といった、宗谷管内を取り巻く環境が大きく変化している状況でございますが、その中でも宗谷のポテンシャルを活かして、将来を見据えた地域づくりを進めていくため、今後の地域づくりの方向性等について、今日はこの場で皆様の思いやご意見をいただければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

また、この場をお借りしまして、1点お話をさせていただきたいことがございまして、北海道総合計画の関係でございます。道の総合計画につきましては、長期的な視点・展望に立ちまして、道の行政の基本的な方向を総合的に示す計画として、現行の計画は2025年までを計画期間として推進してきたところですが、昨今の社会経済情勢の大きな変化等に的確に対応していくためには、現在の計画期間を超えて政策を展開していく必要があるということから、新たな総合計画の策定に着手するというのを、現在開会中の道議会において知事から表明いたしました。今後、今日の連携会議といった会議等でのご議論も踏まえながら、計画の策定を進めてまいりたいと考えておりますので、皆様のご理解とご協力をお願いしたいと存じます。

結びになりますが、今後とも、皆様との連携、協力につきましてお願い申し上げます。開会のご挨拶とさせていただきます。

#### ＜宗谷総合振興局地域創生部地域政策課 伊東課長＞

続きまして、稚内開発建設部 山梨部長よりご挨拶をいただきます。

#### ＜稚内開発建設部 山梨部長＞

本日は大変お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。7月4日付けで部長に着任しました山梨と申します。

さて昨年度につきましては、新たな北海道総合開発計画の策定に向けまして、管内の市町村長様や経済団体の方々と意見交換をさせていただきました。その結果を北海道開発分科会 計画部会に報告させていただいたところでございます。この場を借りてお礼を申し上げます。

また本日は先ほどもあったように、「活力ある宗谷」というテーマでの意見交換ということで、私自身着任早々に貴重なご意見を伺える機会となりましたので、しっかりと皆様のお話を聞かせていただいている、今後の施策に反映できるように頑張っていきたいと考えてございますので、よろしく願いいたします。本日はよろしく願いいたします。

**<宗谷総合振興局地域創生部地域政策課 伊東課長>**

ありがとうございました。それでは会議に入ります。ここからは、振興局清水目の進行で議事を進めさせていただきます。よろしく願いいたします。

**<宗谷総合振興局 清水目局長>**

それでは、議事1番でございます。

「宗谷地域づくり連携会議の規約改正」について、事務局よりご説明いたします。

**<宗谷総合振興局地域創生部 黒田部長>**

宗谷総合振興局地域創生部長の黒田でございます。規約の改正について私の方から説明させていただきます。

資料1、連携会議・合同会議の設置規約をご覧ください。今回は、規約本文に変更はございません。3枚目の別表3ですが、会議の幹事会の構成について、今般、組織機構改正により、中頓別町、枝幸町の構成員の職名に変更がございましたので、表記のとおり改めさせていただきます。私からの説明は以上です。

**<宗谷総合振興局 清水目局長>**

ただいま事務局から説明がありましたとおり、本日付けで規約を改正させていただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。そのような形で整理させていただきたいと思います。

続きまして、議事2「地域づくり推進ビジョン」「北海道型地域構造の保持・形成に関する取組」「北海道開発計画調査」につきまして、稚内開発建設部の高野次長様からご説明をお願いいたします。

**<稚内開発建設部 高野次長>**

稚内開発建設部 高野でございます。私の方から道北地域連携地域づくり推進ビジョン等について、ご説明させていただきます。

まず、地域づくり推進ビジョンの地域重点プロジェクトに関わる、国担当部分の施策の取組、推進についてご説明させていただきます。資料2-1をご覧くださいと思います。

3ページになります。こちら宗谷・留萌・上川管内の道北連携地域の地域重点プロジェクトの整理表でございます。赤字が、国が主体となる6つのプロジェクトになります。今回のこの6つのプロジェクトのうち、宗谷地域に関わる国の取組について、ご説明していきたいと思います。以降7から16ページが各プロジェクトの概要、19ページから43ページがプロジェクトの本文になっております。国の取組と推進につきましては、47ページ以降の個別の取組を見ながらご説明させていただきます。

47ページをお開きください。ここから各個別の取組になりますが、ページ上の部分に、重点プロジェクトをピンク色にしてございますので、ご参考にしていただければと思います。

47ページ、シーニックバイウェイの推進でございます。宗谷シーニックバイウェイのうち、令和3年度に「宗谷歴史ロード」「宗谷周氷河ロード」の2つを「秀逸な道」に認定して、多様な主体の連携の下、清掃活動や情報発信など、美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある観光等空間づくりに取り組み、活動を支援しているところでございます。

続きまして48ページになります。サイクルツーリズムの推進でございます。旭川から日本最北の宗谷岬まで、北海道サイクルツーリズム推進協議会の「きた北海道ルート」に登録されておりまして、サイクリスト応援カーの導入など受入環境整備を官民連携で推進しているところでございます。

続きまして49ページ、一般国道238号、浜猿防災でございます。左枠内に浜頓別工区4.3キロが令和4年度6月に開通しております。現在、残る知来別工区と東浦工区の整備を進めておりまして、このうち猿払村知来別工区延長4.3キロ区間については、来年度、令和6年度の開通を目指し、工事を進めているところでございます。

続きまして50ページ、一般国道40号、天塩防災でございます。左枠内に写真がありますが、新しい天塩大橋から幌富バイパスの幌延インターチェンジまでの延長1.8キロについて、本年、令和5年度の開通を目指して工事を進めているところでございます。

続きまして51ページ、一般国道40号、稚内中央、稚内港の電線共同溝でございます。右図にあるとおり、稚内港電線共同溝延長1キロ、こちらが令和5年度に新規事業化されております。稚内中央と合わせて1.5キロ区間の電線共同溝の整備を進めていきます。

続きまして52ページ、重要港湾 稚内港の整備でございます。過年度に完了した大型クルーズ船の受入環境整備、その他、第一副港地区岸壁の老朽化対策、北防波堤ドームの予防保全事業の推進など、港湾機能強化を図っているところです。また、近年風力発電資機材が稚内港を利用して大量に荷役されているという状況にもございます。

続きまして 53 ページ、地方港湾の整備でございます。昨年度までに、枝幸港本港地区の屋根付き岸壁二棟が完成し、引き続き残りの工事を進めているほか、宗谷、香深、杓形、鴛泊の各港において、水産活動を支える物揚場などの整備を進めているところございます。

続きまして 54 ページ、稚内空港の整備でございます。過年度から滑走路の舗装改良ですとか、場周柵の改良などを進め、昨年、令和 4 年度は空港施設の浸水対策の整備を完了したところでございます。

55 ページ、北海道マリンビジョン 21 の推進でございます。北海道マリンビジョン 21 の推進、これを進めるために宗谷管内の各地区、こちらには 4 地区の展開を掲載しておりますが、各地区でマリンビジョンを策定し、多様な関係者と連携しながら地域活性化に資する様々な取組を展開しているところでございます。

56 ページになります。第 4 種漁港の整備でございます。過年度に、礼文西漁港の防風柵ですとか、抜海漁港の防波堤の整備を終えておりますが、引き続き他の漁港においても、屋根付き施設の整備ですとか、老朽化対策などを進めてまいります。

続きまして 57 ページ、国営総合農地防災事業についてでございます。湛水被害等を解消して、農業経営の安定化を目指すというものでして、過年度末にサロベツ、ポロ沼地区の整備を完了し、今後は勇知地区、幌延地区において整備を推進しているところでございます。

続きまして 58 ページになります。国営農地再編整備事業でございます。こちら効率的な土地利用と農業経営の合理化を目指し、東宗谷地区において、整備事業を推進しているところでございます。

続きまして 59 ページ、地域防災力の向上のための支援メニューになります。左に記載してある 3 つ「防災体制の強化」「災害発生時の支援」「災害に強い地域づくり」として、地域と連携、協働によってハード・ソフト両面で各種支援に取り組んでいるところでございます。

最後 60 ページになります。宗谷管内におけるパートナーシップ活動についてでございます。昨年度に続きまして、今年度も宗谷版北海道価値創造パートナーシップ会議ですとか、南宗谷 3 町の相互交流、管内学芸員等の相互交流に取り組んでいくところでございます。

地域づくり推進ビジョンの重点プロジェクトに関わる国の担当部分の施策の説明については以上でございます。

続きまして、資料 2-2 についてご説明させていただきます。北海道開発局では 8 期計画において、北海道型地域構造の保持・形成のために、各開発建設部において様々な取組を行ってございます。昨年度この会議で、旭川、釧路、帯広のモデル圏域の取組を紹介させていただきました。今年度この 2-2 の資料につきましては、モデル圏域以外の各開発建設部の取組をとりまとめてございます。時間の関係上、詳細は差し控させていただきます。

ますが、興味があるものがございましたら、当部の地域振興対策室までご連絡をお願いしたいと思います。

最後に資料2-3「北海道開発計画調査について」情報提供させていただきます。この調査は、北海道総合開発計画の企画・立案・推進等に必要な調査を実施するものでありまして、裏面に令和4年度の調査の概要を記載しております。昨年度はこうした3つの視点での調査を進めております。詳細については、過去の調査を含めて、開発局のホームページに掲載、公表されておりますので、執務の参考にしていただければということでお知らせさせていただきます。ホームページのアドレスは表面の下段の方に書いていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上で議題2の説明を終わらせていただきます。

#### <宗谷総合振興局 清水目局長>

ありがとうございます。続きまして議事3でございます。「寒地土木研究所の取組」につきまして、寒地土木研究所 木下技術開発調整監様からご説明をお願いいたします。

#### <寒地土木研究所 木下技術開発調整監>

寒地土木研究所 技術開発調整監の木下でございます。本日はお時間をいただきましてありがとうございます。

資料3でございます。寒地土木研究所 土木技術のホームドクターというものをやっております。皆様のまちのホームドクターということで、地方公共団体の皆様の技術支援をいろいろとやっております。

1つには、土木技術に関する諸問題の技術相談などを受け付けております。相談事例等がありますけれども、水道の事故ですとか、道路の陥没の事故等々、困っていることがあればご相談くださいということです。

それから、地域の土木技術者の技術力を支えるということも使命となつてございます。開発建設部さんを通して、技術講習会等もやっておりますが、直接自治体さんから要請があれば、講演に出向くということもありますし、旭川市では雪対策審議会の中で、私どもも委員という形で参加するというものもしております。

ページをめくっていただきまして、災害時も現場に出向いて土木技術支援をするということをやっております。胆振東部の時も現場に職員が行っています。また直近ですと、水力発電所の関係で、水がうまく流れないという話の時も、衛星写真をうちの農業系のチームが引っ張ってきて、ここには水田があって、こっちはもう畑になっているというようなことをお答えするというものもやっております。

総合窓口でございますけれども、今年の4月1日に、旭川にありました道北支所が札幌の寒地技術推進室に統合されております。何かあればこちらにまずはご一報いただければ

と思います。それから下段の方に専門窓口ということで、直接チームにかける連絡先もご  
ざいます。

3 ページ目は、今寒地土木研究所でこういった研究成果があるので、技術普及させたい  
というもののリストでございます。

4 ページ目以降は、それらも含めて話題としてピックアップしたものです。実は寒地土  
研、つくばの土木研究所の中央研究所の技術も、相談を受けたらつなぐことができます。  
4 ページ目、5 ページ目にありますのが、水害対応ヒヤリ・ハット事例集ということで、  
地方自治体さんが災害の時に経験したヒヤリ・ハットをつくばの方でまとめた資料になり  
ます。これもご興味あれば、まずは寒地土研にご連絡をいただければ、つくばの方につな  
ぎます。

6 ページ目は、浸水ハザードマップの3D化が簡単にできますというご案内でございま  
す。

7 ページ目は、道路診断、交通事故関係での道路診断をするツールです。こちらは、北  
海道警察と共同で研究開発したものでございます。タブレットを貸すだけではなくて、研  
究員もそちらに伺って支援を行うというメニューでございます。

8 ページ目、皆さんご承知かと思いますが、吹雪の視界情報です。季節ものではありません  
が、もし自治体の広報紙で冬場に紹介したいということがあればご連絡ください。

9 ページ目は、ナマコのゆりかごとということで、特許関係を今出しているところでござ  
います。ナマコが赤ちゃんの時の育苗床を研究していくというチームもございます。

最後、シーニックバイウェイの話も出てきましたが、景観をやっているチームもござい  
ます。こちら道駅等を含めて、いろいろとご相談いただければ幸いです。

以上、駆け足でございしますが、寒地土木研究所、皆様のまちのホームドクターというこ  
とで、ご活用いただければと思います。ありがとうございました。

#### **<宗谷総合振興局 清水目局長>**

ありがとうございました。続きまして、議事4、振興局地域創生部長 黒田からご説明  
をいたします。

#### **<宗谷総合振興局地域創生部 黒田部長>**

改めまして地域創生部長の黒田です。よろしく申し上げます。

私から「道北連携地域政策展開方針」の推進状況について、ご説明させていただきま  
す。お手元の資料4-1をご覧ください。

1 ページ目、道北連携地域政策展開方針の概要についてであります。1 番「地域のめ  
ざす姿」といたしまして、道北地域の自然環境や資源を活かした心豊かで安心して暮らせ  
る地域を目標に掲げております。その実現に向けましては、3 番「地域重点政策ユニッ

ト」として、こちらに記載しております地域の特色を活かした13本のプロジェクトを設定しております。4番「方針の推進期間」にございますとおり、令和3年度から概ね4年の推進期間を設定しております。2ページ以降、「『きた北海道』への来訪促進プロジェクト」をはじめ、宗谷地域に関連する8つのプロジェクトについて、主に昨年度までに実施した主な取組・成果、あるいはKPIの進捗状況などを整理した資料でございます。後ほどご参照いただきたいと思います。

次に、資料4-2をご覧くださいと思います。この資料ですが、今ご説明した各プロジェクトの推進に向けて、今年度に振興局が実施、あるいは今後実施予定の取組を整理した資料になっています。これをメインにご説明したいのですが、表の左側にプロジェクト名、右側にプロジェクトに関連する取組を記載してございます。

はじめに、①「魅力ある地域資源を活かした『きた北海道』への来訪促進プロジェクト」についてでございますけれども、アドベンチャーツーリズムの普及に向けた取組としまして、ATWS2023が今年道内で開催されますが、これを契機に管内の体験観光の推進を図るため、市町村や宗谷観光連盟等と連携しまして、宗谷のアクティビティやモデルコースを紹介するデジタルコンテンツを作成し、本年4月から、ホームページなどで情報発信を実施しております。なお、首都圏等における誘客プロモーションに関しましては、今年も地域の皆様と連携を図りながら、来年3月を目途に実施を予定しております。

次に、②「新エネルギー導入・活用推進プロジェクト」についてでございますが、ゼロカーボン北海道の実現などに向けた取組といたしまして、ゼロカーボンや新エネルギーに対する住民の皆様の理解促進を図るため、本年10月頃、管内の小中学生を対象とした風力発電など新エネ関連施設を巡る見学会を実施する予定となっております。

2頁目、③「安心・安全な地域づくりプロジェクト」に関してですが、交通安全に係る取組として今年度においても、交通事故防止に向けて、種々様々な運動を展開するとともに、「まさか」の災害への備えとして、本年6月に市町村や防災関係機関との連携の下、体制の変わり目ということもございましたので、災害対応の早期習熟を目的とした「指揮室運営等図上訓練」を実施しております。

4つ目の○、5つ目の○にございますとおり、管内小中学校が行う「1日防災学校」への取組支援や、町内会の自主防災活動への支援といった取組に対して、引き続き、振興局としては、地域防災力の向上に取り組んでまいりたいと考えてございます。

3ページ目、④「活力ある宗谷の一次産業推進プロジェクト」についてですが、昨今の飼料価格の高騰など、管内酪農が厳しい経営環境にあるわけですが、酪農や牛乳製品のPRに係る取組といたしまして、これまで「宗谷酪農の魅力伝える」パネル展や、観光客を対象としたアイスづくり体験会などを実施しまして、大変厳しい状況にある酪農を応援する企画として実施しているところでございます。



また、農水産物の販売促進のための取組としては、昨年、どさんこプラザ有楽町店で開催し、たいへん好評でございました「宗谷フェア」を今年は9月20日から5日間の開催する予定でございまして、現在、出店する商品について募集しているところです。

さらに、栽培漁業の構築に係る取組として、ヒラメやニシンの放流を行うなど、引き続き、力強い一次産業の推進に向け、取り組んでまいります。

次に、⑤「人と自然が共生する地・宗谷創造プロジェクト」についてでございますが、高山植物の保護に係る取組として、本年6月に、礼文島で盗掘防止キャンペーンを実施したほか、地域の森林への関心を深めてもらう取組として、宗谷産木材を使った木育の推進を、また野生鳥獣による被害対策の取組として、関係機関の皆様と具体の対策について協議を行うなど、今後も自然との共生に資する取組を展開してまいります。

最後4ページ目、⑥「地域の多様な人材が未来を創る「宗谷LIFE」プロジェクト」について、宗谷管内の人口減少という喫緊の課題を抱えておりますが、酪農や水産といった基幹産業の人材確保や暮らしに欠かせない地域交通を守るため、地元への就業促進などの取組として、若者のUターン促進に向けて、LINEを活用して企業情報や地域情報を発信するとともに、引き続き、「宗谷地域雇用ネットワーク会議NEXT」の活動を通じまして、若者の地元定着に取り組んでまいりたいと考えております。

次に一次産業の担い手育成、確保などの取組として、新規就農や酪農関連産業の人材確保を図るため、これまで、本年5月に市町村の皆様と連携の下、日本大学ほか道内外農業系4大学を訪問しまして、「宗谷酪農セミナー」を実施しております。道内外の355名の学生に参加いただきまして、併せて行った個別相談でも104名から相談が寄せられるなど、今後の管内への就農に大きな期待を寄せているところでございます。さらに今年の10月には、管内の若手農業者の就業支援、地元定着を図るために、青年農業者を対象とした管外農業視察研修を予定しております。

同様に管内の漁業に関しても、本年5月に利礼3町の漁業団体の参画をいただきまして、「北海道漁業就業支援フェア」に参加し、現在、マッチングに成功した就業希望者の短期体験研修の受入に向け、準備を進めているところでございます。来年2月には、第2回フェアもございますので、こちらにも参加を予定しております。

最後に、公共交通利用促進のための取組でございます。今年度も、地域住民の皆様のマイレール意識の醸成につなげるため、小学生を対象とした「子ども鉄道乗車体験」を既に実施しております。この取組は、今年で5年目を迎えますが、フェリーの船内見学やバスの乗り方講座といった、内容に毎回工夫を重ねており、多くの児童に参加をいただいているところでございます。第1回目として、5月に利礼3町の児童を対象に実施しておりますが、第2回目は、秋頃に離島以外の小学生を対象に実施を予定しております。

資料の4-2の説明は以上でございます。

なお、資料4-3は、ただいま説明した、事業のうち既に今年度終了したものについて、より詳しく整理した資料でございますので、後ほどご参照いただきたいと思いますと考えてございます。

振興局といたしましては、今後も地域の皆様のご理解、ご協力を賜りながら、心豊かで安心して暮らせる、活力ある地域づくりに向けて、引き続き本方針が掲げるプロジェクトの推進に努めてまいりたいと考えてございます。私からの説明は以上です。

#### <宗谷総合振興局 清水目局長>

ありがとうございます。以上、議事の1から4につきまして、お話をいただきました。これまでの議事につきまして質問等はございますでしょうか。

それでは議事に従いまして、意見交換に移らせていただきたいと思います。今回の意見交換のテーマにつきましては、先ほどもお話させていただきましたが、「将来にわたって「活力ある宗谷」の実現に向けた地域づくり」とさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症の流行や物価高騰など、宗谷管内を取り巻く環境は大きく変化しているところでございます。このような中でも、一次産業をはじめとする様々な分野での人材不足への対応や、アドベンチャー・トラベルをはじめとした観光の高付加価値化の推進、未来技術を活かした地域課題への対応など、「将来にわたって「活力ある宗谷」の実現に向けた地域づくり」の取組について、お話しいただきたいと思います。

なお、ご発言は名簿順にご指名させていただきますと存じます。お時間の都合もありますので、申し訳ございませんが、ご発言は5分程度でお願いできればと存じます。

それでは、稚内市の川野副市長様から、よろしく願いいたします。

#### <稚内市 川野副市長>

ご苦労様です。稚内市の川野でございます。今日は午前中、そして昼から宗谷期成会について大変ありがとうございます。また、地域づくりにおいて、開発建設部さん、寒地土木研究所さん、そして振興局さんからいろいろなお話をいただきました。私の方からテーマに合うかどうか不安もあるんですけど、お話をさせていただきますと思います。

現在策定が進められております、第9期北海道総合開発計画、そして北海道総合計画において、「北海道の強み」「今後目指している姿」という部分で、共通して語られているのが、「食」「観光」、そして「脱炭素」というように認識をしております。これらについてはすべて宗谷地域に当てはまっておりまして、そういう意味では、この地域が北海道の発展の一翼を担っていると言えると思いますし、この地域の活力を維持していかなければならないと思っております。

そういった意味ではまず「食」では、漁業についてはある程度好調であると考えておりますが、やはり酪農業につきましては、消費の低迷はある程度区切りが来てきているんですけど、飼料等の価格高騰については影響が非常に大きく、本市でも国や北海道と連

携を行いながら、一自治体の支援には限界がございますが、経営負担を軽減できるように取り組んでいるところです。

またこの地域が、我が国の食料生産基地として、農畜産物や海産物を送り出していくためには、各分野の人材不足が一番大きな喫緊の課題と言えます。今後は行政だけでは難しいと思いますので、事業者・関係者としっかり連携を図りながら、地域全体の課題として、対策を講じていければと考えております。

先月6月9日には、政府が熟練外国人労働者として永住が可能な在留資格「特定技能2号」について、受入れの対象分野を一次産業や三次産業まで拡大することを決定したところであり、こうした制度も活用しながら地域の産業を守っていく必要があると考えてございます。本市でも現在、土木関係では既に家族が来ておまして、子供はすぐ半年ぐらいで日本語を覚えるそうなんですけど、母さんなど、そういった方の支援が必要だという部分で、他にやっている自治体もございますので、そういった部分を参考にしながら進めていきたいと思っています。

次に「観光」ですけれど、本市と利礼3町をエリアとして、幅広い関係者で構成される地域連携DMOを核として、現在、本地域への誘客ですとか、滞在時間延長など、稼ぐ観光の取組を進めています。また本市独自として、一番観光客が訪れる、宗谷岬エリアの魅力の向上に向けた整備を予定しておまして、今後、必要な調査データ収集を行って、必要な整備を進めていく予定になっております。

さらには先ほど部長から説明もありましたけれども、今年度はアドベンチャートラベルワールドサミットが開催され、6月6日に開催された総会に私も出席させていただきましたが、道内の各地域と比較して、やはり外国人観光客が少ないと宗谷は考えています。宗谷にとっては大きなチャンスでもありまして、地域を挙げてしっかり取り組んで、今後の観光の高付加価値化につなげていきたいと思っています。

「脱炭素」につきましては、本市は2011年3月に環境都市宣言を行い、そして2021年2月にゼロカーボンシティを目指すことを表明しております。国が示す2050年のカーボンニュートラルを見据えながら、積極的な建設が始まっております風力発電をはじめとする再生可能エネルギーのさらなる導入拡大ですとか、公共施設への自己託送、そういった部分に取り組んできたところでございます。現在、脱炭素の先行地域の選定に向けて取り組んでいるところでありまして、選定を受ければ様々な恩恵がありますので、当然交付金の活用も可能になります。これらを活用しながら、二酸化炭素の排出抑制が図られ、あわせてエネルギー価格の高騰など、そういった影響受けにくい構造の転換にも繋がる省エネルギー機器導入に対する支援等に取り組んでいく考えであります。また、稚内港においてもですね、カーボンニュートラルポートの取組も今後進めていきたいと考えております。

テーマにあります「活力ある地域づくり」という意味では、これだけではなく、子育てですとか、医療ですとか、いろいろな暮らしを守るための対策ですとか、都市圏から遠隔であるハンデを克服する交通ネットワークの強化も必要不可欠と考えております。ただ、

どんな取組も単独の自治体でできるものではありませんので、宗谷管内の市町村間、国・北海道の連携、そして経済・産業団体、また本市には大学もございますので、今後ともそういったところと緊密な連携を図りながら、様々な地域課題に取り組みながら、将来にわたって、テーマにある「活力ある宗谷」という部分を皆さんと一緒に作り上げていきたいと考えております。以上でございます。

#### <宗谷総合振興局 清水目局長>

ありがとうございました。今お話のありました「食」「観光」「脱炭素」、この3つのキーワードにつきましては、宗谷の持っているポテンシャルにぴったりの部分でございます。この部分をどうやって磨いて、さらに大きくしていくか、それを具体の政策にどのように盛り込んでいくかというのが大変重要だと考えてございます。お話ございました各団体との連携、それは行政だけでなく、民間との連携も含めて、さらなる連携を深めながら、そのポテンシャルを活かしていけるような取組を一緒に考えていきたいと思っております。ありがとうございました。

続きまして、順番にまいります。猿払村 伊藤村長お願いいたします。

#### <猿払村 伊藤村長>

どうもご苦労様でございます。猿払村の伊藤です。私の方から前向きな意見が出ないかもしれませんが、課題も含めて村の紹介をしたいなど、こういうことが困っている、こういうことがしたいということ述べさせていただきたいと思っております。まず村の紹介をさせていただきます。

本村につきましては、人口は全国や他の市町村と比べて緩やかながらも将来的には人口が減少していくという状況になっております。人口の減少とともに、高齢化、生産年齢人口の減少が進む中でも、本村においては65歳以上の高齢化率は現在25%と北海道の市町村では低い値となっております。

また本村の産業構造別の従事者の割合は、第一次産業で32.5%、第二産業で25.5%、第三次産業などで42%となっております。ご存じのとおり村の基幹産業である漁業と、付随する製造業、または牧草地を活用した酪農業が基幹産業となっております。そうした中、生産年齢人口の減少と労働者の高齢化が進み、企業などでは、今後の労働力及び生産性の確保が課題となっております。特に水産加工業におきましては、特定技能実習制度を活用しながら現状を維持している状況でございます。手前どもの役場職員の確保につきましても、近年、中途退職者もいる中で、社会人枠での採用と新規採用者の確保に努めており、今のところは定員管理計画を少し上回る職員を確保することができております。

引き続き厳しい事業環境、限られた労働力の中にあつて、老朽化が進む設備等を抱える企業等においては、今後、生産性を維持しつつ、労働負荷を軽減する必要があることに加え、事業の維持・向上を図るかが課題となることから、IoTなどの新しい技術を活用した

生産性と生産効率の高い設備や作業効率の高い機械設備等の導入支援し、業務の効率化と労働生産性の向上を、村としても図っていきたいと思っております。

その一方で、従業員の確保条件の一つとして、賃金などの条件改善のほかに、住環境の整備が課題となっておりますので、企業などに補助金を出しながら住宅を建設していただいておりますが、費用なども資材高騰などにより、現在、容易に職員住宅を建設できない状況にあります。特に水産加工業におきましては、法改正もあり、特定技能実習生の受入れのための住宅確保が喫緊の課題となっており、もし何か建設にあたって良い補助制度があれば教えていただきたいなと思います。過疎法についても、移住定住の部分は使えますが、この実習生の住宅を建てることができない。それから公営住宅も政策空家で空いているところも、本当はそういうところに売って住宅確保していただきたいというところもあるんですが、公営住宅法の改正もしていただければならないという厳しい状況の中で、なかなか労働力を確保するのが今後非常に厳しくなっていくという状況もありますので、これも含めて、道や国の方にもお願いしたいと思っております。

また現在、役場も職員を採用するにあたって、空き家とか職員住宅とか民間アパートも、ほとんど建てれば埋まるという状況が続いております。3年ほど前に単身者向け住宅を16戸建てましたが、それもすぐ埋まったという状況の中で、職員の採用に向けても、住宅がないものですから、議会と地元住民に説明をしながら、昨年度から、世帯向けの住宅を12戸建設する予定で、今年は2年目で8戸目ができる状況でございます。なかなかこれといった特効薬が見つからないですけども、振興局さんも地域に多様な人材をという中で、いろいろ進めていただいておりますので、本村としても高校も大学もありませんので、まずは超青田買いをしなきゃならないということで、小中学生の子どもたちに「ふるさと教育」をしっかりして、そして地元の各企業に体験学習をしていただきます。コロナの関係でここ何年かやっておりませんが、子どもたちが、ふるさとに残って、活躍をしていただきたいということを小さいうちから、インプットをしながら、高校、大学に行って、また地元に戻ってきて活躍してくれる形になるような取組をしていかなければ、まず人がいなければ活性化もなにもなりませんし、経済も安定しませんので、ぜひ子どもたちの定住をしっかりして受け入れるような政策を今後もしていきたいと思っておりますので、その部分に関しても振興局さん、開発さんとも連携させていただきたいと思っております。よろしくどうぞお願いいたします。

#### <宗谷総合振興局 清水目局長>

ありがとうございます。地元の子どもへの「ふるさと教育」の大切さは、地方創生の話がでてきたときから、あの時も「産学官金労言」ということで、「学」も入って一緒にということで話を進めさせていただいて、当然無理やり引っ張ってくるわけではないんですけど、せっかく地域に雇用があるにもかかわらず、それを知らないでふるさとを出た子どもが帰ってくる機会もないものですから、もし知っていれば帰ったのにということがない

ようにそういった教育を進めていくのが大事ということをお話した記憶がございます。まさに今そういったお話をさせていただきました。振興局でも、若者向けのLINEを作  
って、地域の商業の情報の発信をさせていただくとか、地域の住民、子供たち、若者対  
しての情報発信をさせていただいておりますけれども、どんどん推していきたいと思っ  
ております。そういったことを今思ったところでございます。

続きまして、浜頓別町の南町長お願いいたします。

### <浜頓別町 南町長>

ご苦労さまです。浜頓別町の南でございます。よろしくお願いいたします。

「将来にわたって「活力ある宗谷」の実現に向けた地域づくり」というテーマでござい  
ますが、まず我が町の魅力をどうつくるか、そこが町としても課題と考えております。そ  
の中で本町は、酪農、漁業、林業をはじめとする一次産業とラムサール条約の指定を受け  
ているクッチャロ湖をはじめとする道立自然公園を有する観光を主な産業としている町で  
あります。将来にわたって、この地域に住み続けるには、各産業がしっかりと地域におい  
て、活力ある産業であることが求められるものと考えております。そのためには、各産業  
における基盤整備が何よりも重要であると考えております。そのためには、各産業  
における基盤整備が何よりも重要であると考えております。先ほどから、お話  
が出ておりますように、地域の特性、資源、ポテンシャルを活かした産業振興とともに、  
儲かる産業をさらに成長させることが今後必要ではないかと考えているところでございま  
す。

町の活力を創造するにあたり、潜在的な素材は宗谷管内たくさんあると思っております。  
その素材を活用していくには、先ほど猿払村さんでも言っていましたように人材確保  
が重要ではないかと、やはり人の力を借りなければ、なかなか展開できないのではないと  
考えております。今、日本をはじめ、北海道地域、本町もですが、人口減少、少子高齢化  
が進んでいる中であって、地域においては、担い手・後継者不足をはじめ、深刻な人材不  
足の状況にあります。このまま少子化が進めば、地域の存続が危ぶまれるという深刻な状  
況に直面しており、少子化対策が喫緊の課題と考えておりますし、地域で暮らす若者、子  
育て世代が明るい未来を想像できる地域社会を創造することが問題解決につながるのでは  
ないかと考えております。地域の担い手となる人材を確保する手法として、今取り組んで  
いる地域おこし協力隊の活用であるとか、町を応援してくれる企業とのマッチングによ  
る、地域活性化企業人の活用、国際化が進む中での国際交流員制度の活用などに取り組ん  
でおりますけれども、町では今、約90名を超える外国人が、町内で特定技能制度を活用  
しながら就労している状況でございます。本町の役場も、学校給食センターや病院で、今  
年の8月からミャンマー人を4名ほど採用するとか、CIRということで国際交流員が2名  
とか、どんどん外国人が入ってくるという状況になっております。今後は、技能実習生な  
ど外国人材の活用は、ますます増大していくものと考えております。行政としては、その  
方々の下支えをしっかりと取り組む必要があるのではないかなと考えています。しかしなが

ら一方で、日本という国の人口減少はありますけれども、世界的に見ると人口が増加している状況にあります。今後は商圈を世界に目を向けて、宗谷地域における特産品を海外に輸出する仕組みづくりを目指してはいかがなものかと考えております。それに向けたPRだとか、プロモーションなどそういう地域全体として、観光もしくは地場産品などの情報発信に取り組んでいくことがいいのではないかと考えております。今、いろんな外国人が入ってきて、どんどん多国籍化していく中で、その人たちとの日本で共存しながら、その方々の力を借りながら、情報発信していくのもいいのかなと考えております。

本町では、町の魅力を発信するため、YouTube 動画を作成しております。ここに子どもたちや地域に住む方々にも出演を求め、SNS を通じて、町の魅力を広く拡散させられないだろうかということで取組を着手しているところでございます。まずはこの地域、また本町の知名度を上げ、魅力を発信していく、そういう展開をしていくことがよいのではないかなと考えております。

一自治体では、なかなか取り組むテーマとしては大きいのかなと思いますけれども、一つ一つの取組が最終的には、活力ある宗谷の実現につながるものではないかなと考えております。そういう中で、お互いに情報交換をしながら、連携を図りながら、この地域で住み続けられる地域づくりを展開することが良いのではないかと、私は考えているところでございます。以上、私の発言とさせていただきますと思います。

#### <宗谷総合振興局 清水目局長>

ありがとうございました。特定技能制度における外国人のお話がありました。それを受け入れる環境整備とか、下支えするというのが行政の役目ではないかというお話もいただきました。まさに管内いろいろな国から入ってきているという状況を聞いておりますので、実際その地域でどう受け入れるのか、体制をどうやって整備していくのかというご苦労があるというお話も、よく首長の皆さんからもお聞きしておりますし、お話のありました連携という部分も含めて情報交換をしつつ、受入体制整備として連携できるところを進めていく必要があるのかなと。また我々もそういったお話を聞いて、そのネットワークを作れるのかなと思ったところでございます。ありがとうございました。

続きまして、中頓別町 小林町長お願いいたします。

#### <中頓別町 小林町長>

中頓別町の小林です。

今日、テーマとしてお話しようと思ったのは、人材の確保の話で、今まで稚内市、猿払村、浜頓別町、それぞれのお話の中でも、人材という問題が共通してあるというところを改めて認識したところであります。そしてまた今日、先ほど振興局のプロジェクト説明の中でも、地域の多様な人材の確保に向けた取組がなされているというところもありました。そういう意味で、この人材の問題は、この圏域にとって非常に大きい課題に位置付け

られているし、そこに向かって取り組んでいくことの重要性ということをすごく強く感じています。やはり宗谷が持っているポテンシャルとして、食やエネルギー、観光、そういったものが高くあるということは共有する認識だと思いますけれども、やはりそこに人が集まらなないとポテンシャルを発揮していくことにつながっていかないだろうと思います。それぞれの町村の取組はもちろん重要だと思いますけれども、改めて今日、お話したかったのは、個々がバラバラに取り組むよりも、宗谷という圏域として、暮らしていく魅力、働いていく魅力、そういったものを創造し、それを発信して、多くの人に伝わるような仕組みをしっかりと作り込んでいくことが重要ではないかと思っています。

中頓別町の中でも、私は町長になって8年が過ぎましたけれども、8年前の状況と今と、このわずかな時間の中でも人材をめぐる環境っていうのはものすごく変わっていると強く感じています。この先、ある意味、町全体が人事倒産のような形で回らなくなってくるのではないかというような危機感すら感じながらいます。町の中で、暮らしと仕事の総合相談窓口を作ったり、事業紹介の事業に取り組んだり、地域づくり事業協同組合のような仕組みを作ったりして、地域の働き方改革とあわせて、雇用の確保というところに取り組んでいますけれども、町一つの取組では、やはり限界というものがあるなと感じています。そういう意味で、この宗谷という圏域がまとまって、その暮らしと仕事と、その魅力を発信できるような、ポータルというか、そういうものをしっかりと構築をしていきながら、それぞれの市町村が取り組んでいる事業であったり、それぞれの町村の魅力を発信して、伝わっていくような仕組みを作り込んでいくということが必要ではないかと思っています。

外国人の話もありましたけれども、福祉関係の事業者でも、既にもう外国人材がいないと成り立たない状況になっていますけれども、東川にある福祉専門学校から人材を確保する仕組みができていますけれども、非常に多国籍で、それを一つの町が多言語に対応するような仕組みを作って受け入れていくということも難しいのではないかと思いますので、そういったことも圏域全体の受入れということを考えていくことが必要なんじゃないかと感じます。いずれにしましても、宗谷が一つになって人を集めていく、人材確保していくという、仕事と暮らしと魅力を発信していくという仕組みづくりに連携して取り組んでいくということが大変ではないかと思っています。以上です。

#### <宗谷総合振興局 清水目局長>

ありがとうございます。ポテンシャルを秘めた宗谷のポテンシャルを発揮するときには、それに関わる、支えていく人材が確保できることが大切だけでも、それに係る取組は、個々の団体では限界があるだろうという中で、圏域と連携した取組というのを検討してはいかがかというお話だと思います。今後の地域、圏域の政策の方向性といいますか、向かっていくべき一つの方法なのかなという形でお話をお聞きしました。ありがとうございます。



続きまして、枝幸町 村上町長お願いいたします。

### <枝幸町 村上町長>

枝幸町長の村上です。よろしくお願いいたします。

今、猿払さん、浜頓別さん、中頓別さんと同じ流れですけれども、特に人材不足というところに話が集中してしまっていて、私も今日はそういったところをと思ったらほとんど同じような話になるのですが、本当に人口減少が加速している中で、産業的にも、あるいは最近では町村職員ですら人材確保ができないというような流れになっている中で、ただ手をこまねいているわけではなく、いろいろとこれまでも人材確保に向けて、特に若い方を地元で受け入れるためには、いち早く奨学金の償還助成を制度化して、地元に戻ってきて10年間はしっかり支援しますということをやってきたのですが、最近、対象になっている方の傾向を見ますと、本当に幅広く、農業後継者で就業する子ですら、奨学金を抱えて入ってくるものですから、そういう面ではこの制度は、これからますます対象者が増えるのだろうなと思っております。

それから、枝幸町も外国人技能実習生の受入れも過去には200人を超えていたのですが、コロナ禍で実習生が減った中、特に漁業の水産加工、ホタテ漁船の乗組員というところもインドネシアからの外国人が入ってきている状況でありまして、中国、ベトナムに続いて、タイ、インドネシアと外国人実習生の方が多国籍化しているという感じであります。この後も人口減少の流れの中で、ますますやっぱり外国人実習生に依存するところが出てくるのだろうと思って、今年から枝幸町も、中小企業等雇用促進住宅建設支援ということで、まずは住環境をしっかり整備してもらおうという取組を進めているところで、既に3社、4社と手を挙げて住宅整備に取り掛かっているというところもありますし、来年には漁組さんも規模の大きい受入住宅の整備を検討するという事も聞いておりますので、そういう中であって、管内的には早かったのですが、多文化共生アドバイザーということで、ベトナム出身で日本の大学を出た方をそういう役割の中で、最近では猿払さんも浜頓別さんも外国人を受け入れるに従って、同じような形で配置しているようですから、この辺はもう少し管内で連携しながら、どんどん多国籍化していく外国人に対しての支援というのも今後考えていかなければならないのかと思っております。

もう一つは、福祉の分野で私どもも、東川町の外国人福祉人材育成協議会にいち早く加入して、そこで日本語を習って専門学校を出てきた介護福祉士資格を持った方も、6人ほど受け入れていますが、そういう方もこれからある程度の年数が来ると、また戻られるとか、どこかに行くということになれば、今、道北では東川だけのものですから、そういったことでこれから高齢化が進んで、介護人材を確保するということは、管内的にほとんど同じようなレベルで皆さんどこも大変になっていくのではないのかと思っておりますので、そういった人材不足が深刻化する前に新たな人材を確保する仕組みづくりというのが、管内的にも皆様と連携しながら取り組んでいく必要があるのではないのかと思っております。

あとは、管内町村どこもそうだと思いますけれども、町村職員で土木建築技術系職員の新採を確保するというのが、民間の初任給と大きな開きがあるものですから、現実、公務員の初任給はある程度格付けがありますので、ここを大きく超えて特別にというのは無理がある感じですので、この辺が非常に悩ましいところだと思っております、そこをどういうふうに今後枠組みを変えて人材の確保に向けていったらいいのかと思っております。建設関係の職員も専門学校や大学を出た職員というのは採用が難しいという中で、どのように確保していくか、なかなか大変な時代になってきますから、そういった面での人材確保に向けて、枝幸町として支援する仕組みというの、今もいろいろやっておりますけれども、それ以外にも今後、工夫が必要だと思っておりますし、あとは働き方改革という面で、運輸業の運転手さんの不足、それから冬の除雪体制の確保という意味で、そういった職員の確保というの、地域的に大きな課題になってくると思っておりますので、すべての分野において人材確保というのが、これからの地域を存続させる上で必要であり、そうしないと基幹産業が今順調だといっても、基幹産業の存続が危うくなっていくのではないかと思っております。以上で終わります。

#### <宗谷総合振興局 清水目局長>

ありがとうございます。やはり総じて人材の確保が課題だと。いろいろな役場をはじめ、運輸や介護、人をどう確保していくのがやっぱり将来の課題ではないかというようなお話でございました。ちょっと前に地方創生をよく議論している時は、仕事がないから地域に人が戻ってこないような話をよくしていたんですけども、状況が変わったのか、さらに悪くなっているのか分からなかったんですが、今の話で行きますと、お仕事はあるもの人がいなくて困っているというお話で、ないよりはあるという環境はまだいいんだろうと考えていたんですが、そういった中でどうやって人を確保していくか、それは当然、外国の方のお力を借りるという時代にもなっている中で、それを支えていくための体制とか、そういうものも含めた全体的な人材の確保というの、ケアと言いますか、考えていかなければいけないし、それを連携していく必要があるだろうというお話かと思います。ありがとうございました。

続きまして、豊富町 河田町長お願いいたします。

#### <豊富町 河田町長>

豊富町長の河田です。

今の皆さんのお話を聞いていて、宗谷は非常にポテンシャルはあると思っております。これをどう有効に使っていくかということ突き詰めていきますと、やはり皆さんがおっしゃったように、人材というか労働力をどう確保するのかということになってしまうんですけど、これは一つ、本当に大きな命題がなのかなと考えております。先ほど川野副市長もおっしゃっていましたが、再生エネルギーが、宗谷では一番のポテンシャルかなと

思っております。うちの町に幸い世界最大と言われておりますけれども、日本一は間違いない蓄電施設が建設されて、今年完成いたしました。もう稼動しております。このことを考えると、やはりクリーンエネルギー、脱炭素というものを前面に押し出して町の活性化につなげていきたいと思っております。また新しいエネルギーなんかもしっかりと創造できれば、やはりエネルギーがあればいろんなことができますので、そういう部分では、しっかりと脱炭素を進めていきたい。できたエネルギーはできれば地産地消していきたいというのがありますけれども、なかなか地産地消っていうのは、産業が起きれば可能ではありませんけれども、どういう産業を興していくかという難しさがありますけれども、しっかりと脱炭素ができれば、カーボンクレジットということにも将来つながっていくかなと思っております。

自分はUターン組なんですけど、先ほどから言われているこの労働力。この宗谷は、私は非常に魅力的だなと自分では思っています。稚内市に住んだこともありますけれども、学校を卒業した時は、やはり華やかなところで暮らしたいという思いは自分もありました。ただ縁があって、36の時に豊富町に戻ることになって、ゴルフはできる、魚釣りはできる、スキーはできる、非常に楽しい生活を送れたなと思っております。

やはり労働力の確保ですが、どういう人に的を絞っているのかということもあって、我々も高卒の人達に役場に入ってもらおうとか、地元で働いていただくっていうような政策を進めておりますけども、UターンとかIターンとかにある程度の絞ってもいいのかなという感じもしております。

ふるさと納税でも実感したんですけれども、ものづくりが上手くいけば、インターネットを通して物を売っていける。これは一昔前と全然違うところなんですけど、非常に産業開発というか、商品開発がしっかりできれば、インターネットを通じて、確かに地理的条件的には不利なところがありますけども、物は十分売っていけると考えております。

それと今日の要望会に出て思いましたけれど、豊富町に戻ってきて非常に痛感したのは、町といいますか宗谷は、医療と教育が決定的に都市部と比べると大変な部分があります。この医療と教育の部分を、国あたりがしっかりと支援をしていただければ、先ほど言ったように宗谷で暮らすというのは非常に楽しいことだと思っております。やはり高齢になってくると残念ながら、高度医療になると、医療の充実しているところに行く方もいます。教育については、宗谷といううちの町もそうですが、高等教育を受けようとなると都市部より費用が掛かるんですね。そのあたりをどうにかケアできないかと思っているんですが、そうなれば札幌市とか都市に住まなくても、ここで同じように高等教育が受けられるような状況になっていけばいいなと思っております。

あと、利尻礼文サロベツ国立公園、それと最北の温泉郷があります。酪農が基幹産業で、酪農と観光の町となっておりますけれども、今、酪農は非常に厳しい状況なんですけど、この酪農も基盤整備をしっかりとやれば、道東の方よりも安い土地とかが手に入りますので、十分勝負のできる酪農地帯になっていくと思っております。この辺もしっかり皆さ

んの協力を得ながら進めていけば、宗谷は酪農が基本だと思っております。こういうところで頑張っていきたいと思っております。以上でございます。

#### <宗谷総合振興局 清水目局長>

ありがとうございます。いろんなポテンシャルを秘めて魅力的な地域であると、ただ大きな話題がやはり医療と教育じゃないかということでした。医療の話につきましては、先ほどの期成会の場でもご要望をいただいたところでございます。なかなか日本全国的にそういう話、地方の医療確保が課題とされておりますけれども、我々もしっかりと対応と言いますか、国の方へのお願いを含めてですね、地域の医療が崩壊しないよう努力していきたいと考えてございました。ありがとうございます。

続きまして、礼文町 小野町長お願いいたします。

#### <礼文町 小野町長>

離島の礼文島の町長の小野でございます。

昨年のテーマは、「2050年に向けた取組」ということでありました。確かあの時は、皆さんのお話のあったように、行政はもう限界にきているんだというお話を去年はさせていただいたことを思い出しております。

今回のテーマも、「将来にわたって「活力ある宗谷」の実現に向けた取組」ということでありますので、将来に向けまして、先ほど地域づくり推進ビジョンで説明がありましたように、食と観光、そして自然再生エネルギーを柱とする取組、さらには2050年カーボンニュートラルの取組などを中心にして、宗谷のどの地域も、地方創生が目標としている人口減少をどう抑えて、活性化を図っていくかということに、これからも活力ある宗谷の実現のために、これを明るく考えて取り組んでいくことが大事ではないのかなと思っております。

礼文島は、利尻島とともに有人国境離島に指定されておまして、国の責務において、住民がこれからも安全安心に住み続けられるようにすることが法律で定められておまして、さらに今年4月から10年間の新たな離島振興法が改正、延長されました。今後ますます離島地域での日常生活が続けられるようになるということが期待されているわけです。もちろん離島振興法などの法律があるから、私どもは何もしなくてもいいということではなくて、アフターコロナの時代であります。私たち自身が島に住み続けて、領土領海を保全し、国に貢献する役割を果たしていく。そのために私は、広域交通ネットワーク形成プロジェクト、これは地域と連携した取組をやらなくてはいけないと思っておりますし、離島振興法による雇用機会の拡充、このこともやはりやっていって、活力あるまちづくり、元気な島づくりをしていかなければならないなと考えております。

礼文島の人口は今、2301人です。国立社会保障人口問題研究所が公表した2040年の礼文町の人口は、1604人と推計されておりますので、私たちはこれからも「まち・ひ

と・しごと創生総合戦略」を続けて、町の活力を取り戻さなければならないと考えております。これも皆さん方のお話のように人口減少がありますと、労働力の確保が難しくなる。これは当然のことだと思っております。ただ人口が減っても、地域が活力を失わないように、存続し続けるためには、やはり働ける場を確保していくことが大事でありますから、礼文島の場合は、主産業である漁業者の減少を食い止めていくことだと思っております。そして町の経済活動を活発にしていく。また、海から上がった魚介類に付加価値をつけて、いかに地域でお金が回るようにするか。また観光においては、関係人口あるいは交流人口を増やして、彼らの力を借りて、どれだけ島でお金が回るようにするかということ。こういうことで礼文島に働く場を確保していくということに取り組んでいきたいと考えております。

特に今回の離島振興法の改定では、小規模離島への対応という規定が新設されております。高齢化が進んでいる離島の課題を解決するために、言わば地域のインフラ整備が期待されているわけでありまして。引き続き、島外からも新規漁業就業者を募り、離島活性化交付金事業、あるいは有人国境離島法の取組である雇用機会拡充事業を活用して、各種支援策を通じて漁業者の減少を抑えたり、ふるさと納税での新しい返礼品を開拓して、水産加工を盛んにしていくことなどを進めていきたいと思っております。

さらに観光面では、これも有人国境離島法の取組でありまして、分散型ホテル事業というのがあります。これを活用して離島全体を一つ宿泊施設に見立てて、それぞれのサービス関係施設が連携して行うということで、旅行者を優しく迎えて、稼ぐ観光地づくりをしたいと考えております。また稚内、利尻、礼文が連携した「きた北海道DMO」を中心に今年開催が予定されているアドベンチャートラベル、あるいは来年の利尻礼文サロベツ国立公園指定50周年などを通して、稼ぐ観光地づくりを行っていくこと。またコロナ禍を経て、オンラインを通じたリモートワークが広がったことで、離島には場所に制約されない働き方の場として大きなチャンスが到来していると思っております。ワーケーション環境の整備、あるいは希少な高山植物、文化財を活用して、関係人口あるいは交流人口を増やしていくことでもあります。今後はそういった離島の強みを発揮する取組を進めていきたいと考えております。

加えて、先ほど脱炭素、カーボンニュートラルの取組も重要であるというお話をしました。宗谷は風力発電をはじめとする再生可能エネルギーのポテンシャルに溢れた地域であります。我が町の具体的な取組はまだ決まっておりますけれども、例えば、礼文島の周りは海でありまして、昆布をはじめとする海藻類が多くあります。これを活用したブルーカーボンの取組や地域の活性化を図っていきたいと考えております。先般、新聞等で稚内開発建設部さんでも、利尻昆布の養殖漁場におけるブルーカーボン生態系による吸収量の調査をするという新聞記事もありました。こういったものを皆さんのお力をいただきながら、ご支援を心からお願いを申し上げたいと思っております。活力ある離島をつくっていきたくて思っておりますので、よろしくお願いをいたします。以上でございます。

#### <宗谷総合振興局 清水目局長>

ありがとうございます。離島にチャンスが来ていると、その強みを活かしていきたいという心強い決意表明と言いますか、お話をいただきました。有人国境離島法もでございます。当然、国境離島という観点での立法ではございますけれども、宗谷地域全体が言うならば一つの国境地域であるということでもございます。国防もそうですし、いろいろな観点で、最北の地として、日本の最前線と言いますか、国境地域だということを含めて、いろいろな機会を通じて他県や道外にもPRしていく一つのエッセンスになり得るだろうということでお聞きをしておりました。今までは離島ということで、どうしても不利地域というお話が最初に出ましたが、一つの強みでもあるということをもって、今お話しをいただけたのかなとお聞きしておりました。ありがとうございます。

続きまして、利尻町 上遠野町長お願いいたします。

#### <利尻町 上遠野町長>

利尻町の上遠野でございます。どうぞよろしく申し上げます。宗谷地域づくり連携会議にあたりまして、当町の概要につきましてお話をさせていただきます。

はじめに杓形港の体制につきまして、何点かご説明させていただきます。当町の杓形港につきましては、国交省をはじめ、道開発局、そして稚内開発建設部、稚内港湾事務所の皆様に、日頃から離島の状況をご心配いただきまして、また折に触れ、ご相談に乗っていただいております。心から感謝を申し上げます。離島港湾となります杓形港は、島民のすべての拠点となり、この整備は大変重要であると考えますので、この重要性を皆様にご理解いただき、今後とも特段のご配慮をいただきたく、お願いを申し上げます。

漁船の大型化が進むにつれ、不便さが際だってくるなど、様々な問題や近年は地球環境の変化と思われる想定外の海況の変化なども見られることなどから、これらにも対応できる港としてさらなる安全性や利便性の向上を望む声も強くありますので、住民生活のすべての拠点となります杓形港の整備につきまして、今後とも、ご高配を賜りたく改めてお願いを申し上げます。

あわせて利尻島内唯一の耐震岸壁を整備していただき、供用を開始させていただいておりますが、この耐震岸壁につきましては、平常時の活用も図るため、大型客船の寄港に向け、船社であります商船三井客船株式会社を訪問し、にっぽん丸の寄港について強く要請している状況にあります。船社の方からも、利尻島杓形港はお客様のニーズが多いため、今後とも継続的に寄港したいとの声をいただいておりますので、その意味では、耐震岸壁を整備していただいたことは、本町の観光業にとっても大変大きな財産をいただいたと思っております、有効に活用していきたいと思っております。

また令和2年度は、客船の係船作業の安全性を高めるため、橋の設置工事も実施していただき、環境的には非常に充実したものと考えております。コロナ禍でこの3年間は、

クルーズ船の寄港キャンセルが続いている状況にありましたが、コロナの条件が緩和されたことによりまして、クルーズ船の寄港も再開され、去る6月11日に、今年度第1回目の寄港をいただいております。町民による歓送迎のイベントを実施し、乗船客の皆様にも大変好評裏に終わらせていただきました。今年はこれから8回ほどの寄港が予定されておりますので、今後も安心安全な受け入れに向け、地元関係者などとも協議を進めながら、これまでのように賑やかな杳形港の姿を取り戻せるよう、進めてまいりたいと考えております。このように観光につきましては、コロナの条件緩和によりまして、徐々にコロナ禍前の状況に戻りつつあり、本町では旅行客の増を期待し、宿泊応援クーポンの発行による宿泊プランを実施し、有償クーポン、体験クーポンのセットで旅行環境を応援し、地元旅行者への支援にもつなげております。今後は、冬のバックカントリーや北海道が提唱するアドベンチャートラベルサミットにも大きな期待を寄せているところであります。そのようなことから、町有ホテル利尻も年間を通して、稼動するよう進めており、施設整備も含め受け入れ体制の充実を図っております。

次に、水産業の状況についてお話をさせていただきます。本町の基幹産業であります水産業につきましては、「作り育てて獲る」を目標に掲げて進めており、ウニ種苗生産施設を整備し、年間約250万粒の種苗を生産放流してございまして、町外にも76万粒ほどの種苗を提供しております。その他、昆布、わかめ、ナマコなどの種苗生産も行っており、さらには、雑海藻の駆除や漁場の造成により、これらの増産体制を図っております。また、昆布につきましては、養殖事業が盛んで、昆布生産の約6割を占めていることから、今後は、カーボンニュートラル対策として、ブルーカーボンにも取り組んでまいりたいと思っております。カーボンニュートラルについての取組につきましては、本年3月9日に、利礼3町共同によりますゼロカーボンシティ共同宣言をいたしました。このため、当町では取組の一環として、電気自動車導入推進のため、今年度、急速充電器の導入を進めており、観光による電気自動車乗入れの一助となるものと期待しております。

最後に、ウイスキー製造についてお話したいと思っております。皆さん既に報道等でご存じかと思いますが、一昨年から民間の手で進められておりましたウイスキー工場が、6月に待望のオープンをいたしました。まだ原酒の段階ですが最良のものができ上がったようです。既に原酒の段階で、コンテストで受賞したと報告を受けております。ただいま入手できないような状況が続いております。社長のケイシー氏が描いております「諸外国からのこのウイスキーを飲むために、はるばる利尻に来て欲しい。日本中どこに行っても利尻と言ったらウイスキー。諸外国に行っても利尻から来たと言ったらあのウイスキーで有名な利尻からですか。それは素晴らしい。」こういった会話や交流が広がることを夢見て、世界一を目指すと言っております。社長の言葉に、私も3年後5年後10年後に、世界中にカムイウイスキーの名前とともに、利尻島の名前が広がっていくことを夢に見て、できる限り支援を続けていきたいと思っております。皆さんのご支援もよろしく願いをいたします。以上、利尻町の現状についてお話をさせていただきました。

### <宗谷総合振興局 清水目局長>

ありがとうございました。観光をはじめ、非常に前向きといたしますか、いい状況という話をたくさんいただきました。ウイスキーのお話、先般知事が地域訪問で訪れた時、私も一緒させていただきまして、ウイスキー工場を拝見いたしました。地域のひとつの目玉という形で、これからどういうストーリーが作られていくのかなと非常に楽しませていただきました。当然、利尻でのお酒造りはあるんですが、宗谷という形で、他の地域とも絡んでいければもっといいのかなと。宗谷としてのいろんな材料や原料を含めて、もう少し関われば面白いかなと個人的には思っておりました。ありがとうございました。

続きまして、利尻富士町 田村町長お願いいたします

### <利尻富士町 田村町長>

よろしくお願いたします。9番目になると、今まで首長さん方が発言されたものと相当重複する部分もありますけれども、テーマにある「活力ある宗谷」ということでは、すべての宗谷管内の市町村が輝くことにより、将来的な「活力ある宗谷」の実現が図られるものであって、1市9町村がそれぞれ全国に誇れる物産を含めて、地域資源を持っていると私は思っております。宗谷地方と言えば、宗谷岬と海に浮かぶ利尻山、西は利尻礼文サロベツ国立公園、東は豊富な水産物と流水の来るオホーツク海、内陸には広大な宗谷丘陵と、一例を述べてもこれだけのものがあります。これらを組み合わせ、様々な情報を今まで以上に、一歩前進し、発信することにより、魅力ある宗谷づくりを展開できると思っておりますが、とはいっても何が宗谷の活力でアイデア的なものがあるかと言われると、なかなか難しいものがあります。

一昨日、日本空港ビルディング株式会社の会長さんが来られまして、羽田空港での「産直セレクション北海道グルメ」で、宗谷エリア特集が実施されております。そういった関係で宗谷には、素晴らしいものがあるとのお話をされておりましたけども、このような媒体を活用した事例も大事かなと思っております。本町としましても、国や道の施策を含め、取り残されることなく、今後も管内の皆様と歩みを進めていかなければならないと思っております。そのような中で、やはり本町の活力の源は基幹産業である水産業と観光業から生まれてくるものでありますので、必然的に地域づくりの根幹を水産と観光の取組となり、利尻島の雄大な自然と、その恩恵を受けた水産、観光資源の高付加価値化を実現し、将来にわたり持続可能な資源へと転換を図っていかなければならないと考えております。

まず、観光でありますけども、今日の会議でも話題となっております。9月に北海道においてアドベンチャートラベルワールドサミットが開催され、その前段として実施されるプレサミットコースと、閉会後に実施されるポストサミットコースに、本町からも採択されておりまして、シーカヤックやサイクリングツアーが設定されているということでは、利



利島の大自然の魅力を感じ、評価していただいたものと喜んでおりますし、今後はインバウンドの受入体制やツアーガイドの増員・育成などの強化に向けた取組が必要になってくると考えておりますので、今後の観光需要や国と道の統合等を見据え、取り組んでまいりたいと考えております。また来年は、先ほど来ありますけど、利尻礼文サロベツ国立公園が、昭和49年9月に指定されてから、50周年の節目を迎えますが、本町としては、前年である今年を国内外の観光需要の本格回復に向けた再スタートの1年と位置付けております。ここで観光に直結する利尻空港の利用状況についてでありますけども、6月分の実績では、通年運行でJAL便の利尻-丘珠線の搭乗率が90%。6月から9月までの季節運行であるANA便の利尻-新千歳の搭乗率が70%と、いずれも前年同期と比べまして、プラス10%以上を達成しております。利用者については、大半が観光客との話を聞いておりますので、最高の観光シーズンの幕開けを飾ることができることに安堵しておりますし、8月27日開催の利尻島1周ふれあいサイクリング大会では、稚内自然保護官事務所が実施しているe-bikeの普及啓発活動の一環として、国立公園指定50周年のイベントとなるような、コラボ企画も計画しており、さらなる利尻島の魅力向上に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、水産であります。6月に入り、ウニ漁と養殖昆布漁が始まっており、7月からは、天然昆布漁も解禁となりますが、浜の活気が漁師町ならではの最大の活力であると改めて感じているところであります。今年3月に、利尻町、礼文町、本町との共同によりまずゼロカーボンシティ宣言をいたしました。本町においては、養殖昆布を核としたブルーカーボンの取組について、北海道開発局と利尻漁協と連携し進めているところであります。今月3日に稚内開発建設部より報道発表されておりますが、利尻島沿岸の一部では、磯焼けが発生しており、ブランド品である利尻昆布の安定的な生産を確保するため、養殖昆布漁が盛んに行われておりますが、この養殖昆布の漁場におけるブルーカーボンによるCO2収集量を調査し、年内を目途に吸収量の推計をすることといたしました。本町で、地球温暖化対策実行計画を今年度中に策定する予定であり、CO2吸収源対策の一環として、このブルーカーボンの取組を盛り込みながら、カーボンオフセットという制度が既にありますが、将来的にはブルーカーボンを明瞭化し、取引可能なクレジットとして活用することも検討しながら、利尻島には豊富な海面の藻がありますので、ブランドである利尻昆布に新たな価値を見出すためにも、ブルーカーボンの取組を進めていきたいと考えております。今日の意見交換をテーマにしたではありませんけれども、以上で私からの発言といたしました。ありがとうございました。

#### <宗谷総合振興局 清水目局長>

ありがとうございましたブルーカーボンにつきましては、全然テーマと関係ないというわけではなく、まさにそれをもって宗谷の持っているポテンシャル、再生可能エネルギーやゼロカーボンの取組の最前線と言いますか。これからその価値が広がっていく分野のお話

かなと思っておりました。さらなる今後の可能性というのを感じて、お話を受けとめさせていただきます。

続きまして、幌延町 野々村町長お願いいたします。

### ＜幌延町 野々村町長＞

幌延町の野々村でございます。

「将来にわたって「活力ある宗谷」の実現に向けた地域づくり」というテーマにつきましては、これからお話することがテーマに即しているかどうかということはありませんが、現在、我が町で取組をしているお話をさせていただきたいと思っております。

本町においても、令和5年5月8日から新型コロナウイルスの感染法上の位置付けが5類感染症へと移行したことに伴い、近年続いてきたコロナ禍の生活様式とは異なったコロナ禍前に戻そうとする動きが少しずつではありますができております。今月22日、23日には、久々に皆さんにお集まりいただき、理科実験や工作を通して科学を親しむ青少年向けイベント「おもしろ科学館」が、4年ぶりに開催されることや、今年で50回目の節目を迎えます幌延名林公園まつりが8月に同じく4年ぶりに開催されるなど、生活様式が徐々にコロナ禍前に戻りつつあると、活気溢れる地域を取り戻してきたかと感じています。しかしながら、昨年2月から続くロシアによるウクライナの軍事侵攻につきましては、いまだ停戦の見込みは立っておらず、その影響は、二国間のみならず、食料、穀物、資材価格の高騰等と、世界全体にも及んでおり、当然のことながら国内経済に大きなダメージとなる問題が重なって起こっており、未曾有の危機を迎えております。このような状況の中、どのようにして将来にわたり活力ある宗谷の実現に向け、地域づくりを行っていかなければならないのか、本町の課題といたしましてはやはり、一次産業はじめとする様々な分野での人材不足が深刻な課題と考えております。

本町では、担い手の減少や労働力不足の支援策として、酪農分野において、農業支援員活動事業を実施し、酪農担い手センターとの連携の下、農業支援分野の地域おこし協力隊を育成・支援することで、地域就農の促進を図っております。昨年度、地域おこし協力隊の農業支援員としてご夫婦2人が着任いたしました。将来的な就農を目指し、現在は農作業に係る技術や知識の習得、そして町内の酪農関係の仕事も支援活動のほか、担い手育成センターの広報活動の一環として、SNSにより自分たちの目線で本町の酪農の魅力を発信し、新たな担い手の確保に向けてご尽力いただいております。これらの活動も含め、今後も引き続き本町での就農魅力発信等を通じて、担い手の確保に努めてまいりたいと考えております。

また商工分野においても、経営者の高齢化や後継者の不足により、事業の継承や存続が危ぶまれる状況にあるほか、技術者や従業員の確保が課題となっていることから、商工会と連携の下、商工業人材育成事業及び雇用促進事業により、企業人材確保や育成に資する支援を継続してまいりたいと考えております。過疎集落対策の観点で本町では、令和元年

度から、問寒別地区をモデルとして、いつまでも地域が集落で暮らし続けるという願いや、住民がそこでの生活を維持できる仕組みづくりとして、地域コミュニティ形成事業に取り組んでおります。本事業では、地域住民などで組織する地域運営組織が運営する、地域機能提供拠点を構築することにより、地域集落形成を維持するための働く場と住環境づくりを進めていますが、事業の推進に必要な人材については、就職支援や地域おこし協力隊などの人材を活用しております。また地域運営組織に関しましては、定期的に地域住民と懇談を重ねつつ、地域集落の課題を把握した上で、組織立ち上げに向け、今後検討を進めてまいります。

最後になりますが、地域の活力や賑わいを創出するためには、町内外を問わず、多くの人の力が必要になります。本町の基幹産業である酪農業や商工業のほか、様々な分野において、これからの時代を担う人材の育成や確保、事業継承の充実を図るために、必要な支援については継続的に行い、また日々進行する過疎化を食い止めるための取組を進めることで将来にわたって活力ある宗谷の実現に向けて、幌延町一丸となって作りあげていきたいと考えております。これが現在、本町が行っている活動の一つであります。

#### <宗谷総合振興局 清水目局長>

ありがとうございます。人材育成、人材確保の一つとして地域おこし協力隊のお話もいただきました。他の町村でもいろいろな人で不足対策につきましては、地域おこし協力隊の力を借りながら取り組むところも多いかと思えます。道といたしましても、地域おこし隊のネットワーク機能を新たに作らせていただきまして、そういったものの活用いただくなり、また協力隊の新しい制度である短期間の協力隊というの、制度として運用しているということでございます。いろんなパターンがあるようでございますので、そういったものをいろいろ活用しながら、人材確保に活用していただければと思います。何かございましたら振興局の方にご相談いただければと思います。ありがとうございます。

続きまして、民間団体の皆様からお話をお伺いできればと思います。まず、宗谷管内商工会連合会の中村会長様からお願いいたします。

#### <北海道宗谷管内商工会連合会 中村会長>

宗谷管内商工会連合会の会長やっております中村と申します。本日は宗谷管内の経済団体のひとつという立場から意見を述べさせていただきます。よろしく願いいたします。

今回のテーマをいただきまして、「活力ある宗谷」ということですが、先ほどから各首長の方々からもお話が出ていますように、私たち商工会の中においても、やはり人材不足というのが非常に重要な課題になっております。そういうことから商工会の組織として、我々がどのようにして人材を確保しているかということ、私たち組織の中の話をしていただきたいと思います。

ここ数年、先ほども言いますように、非常に厳しい状況に商工会の職員を採用するにも大変な努力が必要になってきております。商工会の職員の採用は、基本的には全道統一試験というものを実施しており、合格者には、職員を募集している全道の商工会を紹介し、希望者はその商工会で面接を受けていただき、採用という流れの現状であります。しかしながら宗谷管内をはじめ、道内の商工会は大半が都市部以外の地域に設置されておりますので、地元出身者以外は就職に消極的な状況が続いております。

そういうことから、令和3年度から、全道統一試験とは別に、採用地を限定した試験を実施し、地元採用を積極的に行っているところであります。宗谷管内では、令和4年に、採用地限定試験を豊富町、礼文町、利尻富士町の商工会で実施し、地元の高校を卒業した生徒を採用することができました。しかし、他の地域の商工会では募集しても受験者が集まらないといった声も聞こえております。我々商工会は全道に152ヶ所に点在しており、職員数は全体で約750名おります。規模の大きさによって職員数も変わってきますが、平均しますと1商工会当たり4名から5名の職場でございます。他の企業とは違い、職員の退職があって初めて新たに職員を募集するといった方法で採用を行っておりますので、毎年計画的に採用することが難しいため、非常にわかりづらい部分もあるのかなと感じております。

これらのことを踏まえまして、今年度から、宗谷管内商工会連合会では、北海道商工会連合会と連携をとり、地域の高校の校長先生や職員に対して、商工会組織の説明と各商工会の地域振興の取組について説明を行い、商工会の理解を深めていただくとともに、学生の就職希望者に対して、商工会を選択肢の一つとして認知してもらうよう、地域高校と商工会の連携強化事業を実施していきたいと考えております。この事業をきっかけといたしまして、将来的には商工会が地域住民に認知され、地域にとって必要な団体であるということが分かってもらえるように取り組んでいきたいと考えております。商工会の事業の一つに、地域の発展のために総合的な活動を行うことがあります。地域の事業者が元気であることが、地域の活性化に繋がっていると思っております。地域事業者が元気であるためには、商工会が経営のサポートやまちづくりのサポートなどを行うことが非常に重要であると考えております。先ほどお話しました、今年度新たに新卒で採用となった豊富町、礼文町、利尻富士町の職員は、商工会を志望した理由の一つとして、地域のために仕事をしたいと言っております。商工会組織にとりましては、これほど嬉しいことはありません。このような気持ちを持った子どもたちを育てるために、我々も地域振興と発展に取り組んでいきたいと考えております。そのためにも地域の高校、役場、その他の関係機関と連携を図りながら、地域が元気になるような事業を進めてまいりたいと考えております。以上で、私たち商工会の組織の人材確保のための取組でありますので、どうもありがとうございました。

#### <宗谷総合振興局 清水目局長>

ありがとうございました。地域の事業者が元気でなければ、地域は元気にならないと。その事業者の元気を支えるためには商工会が元気でなければならない。そのための人材育成に一生懸命努力されてるといってお話でございました。ありがとうございました。

続きまして、稚内観光協会 中場会長お願いいたします。

#### <稚内観光協会 中場会長>

稚内観光協会の中場でございます。どうぞよろしくお願いたします。

「活力ある宗谷」ということでございますけども、ちょっと方向が違うかもしれませんけども、私の方からは2つばかりはお話させていただきます。

まず1つが、今の稚内の観光の現状ということでお話をさせていただきます。まず宿泊の方でございますけれども、5月より土日以外は満室の状態が出始めたということ聞いていまして、6月からも同様であるけれども、6月以降は土日でも満室のような状態であると、これについてはビジネス、また工事、これに個人型から非常に増えてきた、観光客も増えてきたということかなと思っています。同じく7月に入ってから、同様に順調で非常に好調だと伺っているところでございます。

また運輸関係につきましては、フェリーとバスがメインでございますけれども、4月、5月については、個人については7割から8割、これはコロナ前近くということでございまして、団体については50%~60%の率と、団体については影響があるということでございます。6月に入ってようやく盛り返しまして、個人については大体80%まで復活、団体については、90%まで復活したというのがバスとフェリーの数字ということでございます。4月から6月については大体、個人では85%までコロナ前から復活したのかなと、団体については70%ぐらいということで、非常にまだ低いんですけども、お宿さんの関連で満室が多いという中で、これが例えば戻った時に、お宿さんが果たして確保できるのかという問題もあるのかなと思っているところでございます。

今のようなお話の中で、実は昼食・夕食難民が発生しているということでございまして、せっかくお越しになっても食事場所に入れないということで、最後は昼夜それぞれコンビニの弁当で済まざるを得ないという状況があったと伺っております。宿もそうですが、食事どころについても問題になっていることが現状かなと思っております。これらに対しては、人手不足による影響もあるのかなというところも感じており、なかなか大量のお客さんを入れるというのは難しい状況なのかなと思っているところでございます。

もう1点が、1市3町によります地域連携DMOの関係でございます。昨年の3月に候補法人に指定されて、3年間のうちに本登録を目指している状況でございます。3年間で本登録にならないと、またゼロからのスタートということで、いろいろな事情を抱えて運営しているところでございます。事業については、地域連携のホームページの作成、来訪者のアンケート、住民満足度調査ということでございまして、来訪者のアンケートに

つきましては、訪れた方々から地域の問題点や良いところをアンケートで答えていただくということでございます。その中では、カード決済ができないとか、交通の利便性が悪いとか、食事どころに入れないとか、そのような問題が出てきている。また住民満足度調査については、観光客・観光事業に対してどう思うということでアンケートを行っておりますけれども、インバウンドを含めた観光客に対しては、非常にご理解をいただいているということと、観光は必要であるというお答えがあるという状態でございます、ある程度は期待されているのかなという状況でございます。

DMO というのは、DMO が稼ぐのではなく、地域が稼ぐ試験場として運営をするという状況でございます。従来は自然が売りということでやっておりました、おいしい魚もあります。よくエージェンツさんからは、「宗谷に行けばなにがあるの？」という話で、従来の話ではなかなか呼び込めない状況になったということでございます。どうしてもこれからは体験型が必要だということで、「宗谷に来たらこういうことができます」というお話をしていかなければダメなのかなと思っているところであります。

先ほどからお話されている ATWS の開催があります。そのあとに、こちらの方にもお越しただけるといことですので、しっかりとご意見を伺って今後活かしていきたいと考えているところでございます。私の方からは以上でございます。

#### <宗谷総合振興局長 清水目局長>

ありがとうございます。観光の現状等と DMO のアンケート結果のお話もいただきました。まさに今お話ありました体験型に向けてということで今年行われる ATWS プレツア一、ポストツアーを含めて、観光の磨き書き上げの一つ方向性として、体験型のさらなるメニュー開発も進めていく必要があるのかなと思ってお聞きいたしました。ありがとうございます。

最後に、育英館大学 佐賀副学長様お願いいたします。

#### <育英館大学 佐賀副学長>

育英館大学副学長の佐賀と申します。よろしくお願いたします。

いつも本学の学生について、ご支援いただきありがとうございます。稚内市はじめ各町村の方々、学習活動であるとか、そういった場に学生にお声掛けいただき、学生の成長に非常に有効になっているかと思えます。また振興局の方々に関しても、音頭をとっていただいて、各市町村の若手の職員の方々と語り合う場とか、コラボする場とかを作っていただいて、そういった意味で学生の市町村への理解などといったところも非常に促されているのかなと思っております。

本学、情報メディア学部ということで、定員は 50 名ほどで、なかなかそれでも魅力を伝えきれなくて、定員割れが続いておまして、皆さんご承知のとおり、一時期は存続の危機ということもありましたけれども、現状としては、学生が本学を志望する理由とし

て、宗谷以外から来る子たちは、大体は情報を最終的にはということである。また、中学・高校の数学・情報の免許が取れますので、教員になりたいと来るという子たちが宗谷以外はほとんどです。逆に宗谷や稚内の子たちはというと、最終的にこの辺で働きたいと言って、その前に自分の力をもっと上げておきたいということである子たちが大半で、稚内には当然たくさんの学生が行っているんですけども、大学ができてから大体23年ぐらいですが、宗谷の枝幸、浜頓別、豊富とかそういったところから来ていて、稚内も含めて宗谷で働く学生が6割～7割弱ぐらいとなっております。というのは、やはりここにいて、先ほど言ったいろいろな活動を通して、よりここで働きたいという魅力を持っていると実感したからというのがあってと思います。

また宗谷以外から来て、教員とかソフトウェア技術者とかを目指したけれども、やっぱり学んでいく中で、人が良いみたいなことを学生は言うんですけども、非常に皆様よくしてくれるので、こういったところで働きたいということで、宗谷で働いている管外の学生あるいは道外の学生もいます。そういった意味で、各市町村でいろいろお世話になっているかと思っています。重ねて感謝を申し上げます。上手く戦力になっていけばいいなと思っているんですけども、これからもご指導お願いしたいと思います。

3年ほど前から法人が代わって、サテライト校を京都に作りまして、今、一番上が3年生なんですけど、稚内で学ばせよう、あるいは稚内の学生が京都に行って学ばせようみたいなことを考えておりますので、京都から学生が来た折にも機会があればぜひ観光以外の宗谷の魅力っていうのを何か伝える場をつくれればいいかなと考えておりますので、そういったことあれば、またご相談させていただきたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願ひしたいと思います。

先ほど言った教員の志望の中でも、いわゆる地域枠で教員になりたいという学生も、2年に1人ぐらいはいて、今は管外にいるんですけども、若干やったら戻ってくるという形ですが、そういった学生もいます。これもやっぱり市内の小中の先生方と触れ合うことによって、よりそういった思いを強くしているという面がありますので、引き続きそういった意味では、いろいろなところとコラボをしてやっていきたいと考えております。いろいろなお声がけもいただくんですけども、ちょっと学生数も少なく、なかなかそれに十分お答えできないところは改めてお詫び申し上げたいと思っておりますけれども、それでどうせ来ないから声をかけるのはやめようとならずに、ぜひ何かありました声をかけていただければと思います。

そういった意味では、大学の学生数がもうちょっと増えると、地域でより働きたいという学生も、割合から見ると増えてくるのかなと思いますので、稚内市で行っていただいている貸付金制度とか給付金制度とか、あれがなかったら大学では学べなかったという学生も多かったりしますので、国の制度では低所得者層は負担なしで通えるというところはありますが、まだまだ下宿代などを考えると厳しいなというような学生とかもいますので、

先ほどの枝幸町さんの話のような奨学金も、地元に戻ったら返さなくていいとか、そういう制度があるとありがたいと考えております。

我々もぜひこの宗谷で働ける人材をたくさん輩出していきたいと思いますので、引き続きご支援いただければと思います。よろしく申し上げます。

#### <宗谷総合振興局 清水目局長>

ありがとうございます。人材の地域定着という意味ではその地域に根差した大学、非常に重要な役割を持っていると考えております。お話の中にもありましたけど、ぜひ各自治体の皆さんと連携をとりながら、PRなどの機会を提供していただきながら、人材の確保につなげていければいいかなと思ってお話をお聞きました。

これで一通りご発言いただきました。皆様方から補足等ございますでしょうか。すみません。進行が悪く時間が超過して申し訳ございません。

では最後に稚内開発建設部の山梨部長様からご発言をお願いしたいと思います。

#### <稚内開発建設部 山梨部長>

今日は貴重なお話をありがとうございました。共通的な話としては、やはり人材不足、確保が課題だというお話がありました。北海道総合開発計画においても、宗谷地域のように、食や観光を支えている生産空間、これを維持するということに主眼が置かれています。今日のお話を聞きますと、想像以上に人材不足が進み、生産空間の維持という課題が深刻になりつつあるのかなということを感じました。我々としては、8期計画に沿ってしっかりと社会資本整備をして、医療ですとか教育ですとか、まちの魅力っていう話もありましたけども、そういったものに直接的・間接的に貢献するものですし、8期計画の中の北海道学という取組をして、北海道の成り立ちから教えていくというところでやっております。また、今後の一つの希望ということでいうと、カーボンニュートラルというような話もたくさんありましたけれども、現在検討中の9期計画の中でも、柱の一つと考えております。先ほど利尻昆布の話についても、これまで養殖していたものが、実はCO2吸収に非常に大きく貢献している可能性があるというところ、そういったものの発掘なども進めていきたいですし、宗谷圏域全体でこうしたものを一つの柱にして、地域の維持というところにつなげていければいいのかなと思っておりますので、また皆様と意見交換しながら、高めていければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

#### <宗谷総合振興局 清水目局長>

本日貴重なお話をちょうだいいたしまして大変ありがとうございました。本日、皆様にご議論いただきましたお話、いただいたご意見、これを参考にして、国や道の政策、施策の方に反映をさせていきたいと考えております。



本日の議事については、以上で終了させていただければと思います。皆様方におかれましては、円滑な議事進行にご協力いただきありがとうございました。すみません。司会の私が余計なことをしゃべって時間を超過して申し訳ございませんでした。

それでは進行につきまして事務局にお返しいたします

**<宗谷総合振興局地域創生部地域政策課 伊東課長>**

本日は長時間にわたり、大変貴重なご意見等々本当にありがとうございました。以上をもちまして、地域づくり連携会議を終了させていただきます。ありがとうございました。